

大分合同新聞 平成30年6月25日

「親子で台所に立とう」



時

④「食育とは何か」をテーマに「食育とは何なり」と題して、大分市に討論するパネリストと話す竹下和男さん＝24日、大分市

食育推進 全国大会 シンポで意見交換

食生活や食文化の大切さを考える食育推進全国大会は最終日の24日、大分市中心部で多彩な催しがあり、多くの家族連れらでにぎわった。

シンポジウムには「子どもが作る弁当の日」を提唱した香川県綾川町の竹下和男さん(69)が登場。県内の地産地消レストランオーナーや有機農業家らと意見を交わした。

竹下さんは「食育は命の

バトンタッチ」と話し、子どもが小さい頃から親と一緒に台所に立つことの重要性を訴えた。パネリストからは1人暮らしの高齢者にも食育を伝えていくことの大切

事さや、食べ物の旬を意識する必要性を指摘した。料理愛好家平野レミさんのトークショーのほか、食物アレルギーがある人でも食べられるよう卵や小麦粉を使わないデザート料理教室もあった。

大会は23、24の両日で約3万3500人(主催者発表)が訪れた。



読売新聞 平成30年6月27日

歌とダンスで食育啓発



ダンスを披露する「育ドル娘」のメンバー

別府短大の学生や卒業生

農水省表彰を受賞

育ドル娘は2010年、同科の立松洋子教授の研究室に所属していた学生たちが結成。保育園で二汁三菜の大切さを分かりやすく教えるため、オリジナルの歌と踊りを作ったのがきっかけだった。

別府短期大学部食料栄養科(別府市)の学生や卒業生でつくられた「育ドル娘」は「育ドルDream」が、歌とダンスのパフォーマンスで食育の啓発活動を行っている。これまでメンバーを替えながらイベント出演などを重ね、今年は農林水産省の表彰を受けた。学生たちは「さらに活動の幅を広げたい」と張り切っている。

育ドル娘は、昨年約80ステージに立ったという。主菜や副菜の栄養素の働きをオリジナル曲の歌詞に盛り込み、アイドルグループ風のダンスを披露。食中毒予防の啓発やオリジナルレシポの開発なども手がける。

現在、1、2年生26人が8、9代目として所属。これまでのメンバーは200人を超え、昨年は育ドル娘の卒業生で育ドルDreamを結成した。現役の学生たちのテスト期間中や人手が足りない時に活動している。

大分合同新聞 夕刊 平成30年6月28日



24、25の両日に開かれた食育推進全国大会は大盛会のうちに幕を閉じた。初日は雨、2日目は炎天下にもかかわらず、国内外からJR大分駅、JCOMホルトホール大分周辺のブースにお見えになった皆さまに厚くお礼を申し上げたい。企食終画から準備、出店のの大会段取りから当日まで、休む暇なく動きメードの大会続けたスタッフの皆分推進全に感謝。

私たちの発酵麹ラボのブースでは2日間、計6人の講師（三和酒類、学習院女子大学、糀屋本店）が1時間置きに発酵の素晴らしさを熱く語り、好評だった。両日合わせて2千人分の甘酒「一夜恋」と糀入り塩ペッパーの試供品は、

私たちが発酵麹ラボのブースで言葉だ。



浅利 妙峰

大企業だけでなく、地元の出店も見応えがあった」と喜ばれていたそう。大分メードの食育推進全国大会にしたいと願っていた私たちに、何よりの褒め

初日も2日目も飛ぶような人気で、お昼すぎにはなくなった。

会場では3万3千人以上の人が

行き交い、出会いの喜びや交流するワクワク感を思う存分楽しめたことだろう。台湾の視察団、APUの学生さんら国際色も豊か。毎年参加される台湾の旅行団の方が「前年とは全然雰囲気が違う。

大分合同新聞 平成30年7月2日

だんご汁の作り方を ラップ音楽に乗せて



・高校野球 大分
7日に開幕する第100回全国高校野球選手権大会は、6月20日の組み合わせ抽選会終了直後から多くのユーザーを集めました。

・ラップ
大分が誇る郷土料理、だんご汁とやせうまの作り方をラップ音楽に乗せて紹介する動画「郷土料理ラップ」が、県のパワポとして一定の成果があった様子。シリーズ化して、シニアのように大きく育ってほしいですね。ちなみに動画の冒頭部分では、どこか見慣れた新聞をお父さんが読んでいます。郷土料理同様、郷土の新聞もよろしく！
・大分大学 論文
大分大学で発表した論文の盗用問題はSNSで拡散した後、検察されてしまった。主な執筆者は県内の公立学校に勤務する教員。初めは論文、引用ルールを熟知していないという点が、ユーザー自身の経験もあって共有されたようです。論文に限らず、手順やルールはきちんと守りましょう。

西日本新聞 平成30年7月4日



団子汁やせつまをPRする動画「郷土料理ブッ婆」作り方をラップで歌う

（後藤薫平）

大分県のウェブサイトに動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開している。県はこの秋、朝食を食べるよう促す動画も作る。

以上の反響が目撃された。大分県のウェブサイトに動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開している。県はこの秋、朝食を食べるよう促す動画も作る。

5人は完成まで約1カ月間、歌や演技を特訓。ラップ役の高橋鶴子さん(83)は別府市IIは「リズムに慣れるのが難しかった」と苦笑いした。孫役の小学5年生安野心粋さん(10)は「大分市IIはシンフロを超える再生回数を狙いたい」。大分の温泉をシクロナイスドスイミングでPRした動画

動画の主演はラッパーをとめた。

5人は完成まで約1カ月間、歌や演技を特訓。ラップ役の高橋鶴子さん(83)は別府市IIは「リズムに慣れるのが難しかった」と苦笑いした。孫役の小学5年生安野心粋さん(10)は「大分市IIはシンフロを超える再生回数を狙いたい」。大分の温泉をシクロナイスドスイミングでPRした動画

動画の主演はラッパーをとめた。

団子汁、やせうまとも、小麦粉で作っただんごを使う。ラップが孫たちについて、だんごを具だくさんの汁に入れる団子汁に対し、やせうまは平たく伸ばしてきな粉をまぶし、おやつとして食べる。

佐伯市の砂浜などの観光地でも撮影し、5分26秒にまとめた。

ラップ調で歌い紹介

大分県が郷土料理PR動画

県は郷土料理の「団子汁」「やせうま」のPR動画「郷土料理ブッ婆」を作成した。公募で選ばれた5人が家族を演じ、方言を交えた軽快なラップ調で歌いながら作り方を紹介している。

♪しんけんおいしいだんご汁っちゃ♪

大分合同新聞 平成30年7月13日

別府大短大生と卒業生の2グループ

食育普及に貢献

「育ドル」が受賞

別府大学短期大学部食物栄養科(別府市)の学生グループ「育ドル娘」と、卒業生でつくる「育ドルDream」が、農林水産省の第2回食育活動表彰で、消費・安全局長賞を受賞した。「ボランティア部門・大学等の部」で最高の農林水産大臣賞に次ぐ栄誉。両グループの食育普及の取り組みが高く評価された。

学生11人と、指導するに栄養士を目指す学生ら立松洋子教授が9日、市で結成。歌や踊りを通して役所を訪れ、長野恭弘市長に受賞の喜びを伝え、その取れた食事の大切さを。学生らは「活動を通じた食育の知識などについて、活動を通して別府の魅力を県産品のPRにも力を入発信したい」と話した。長野市長は「別府のPRのために協力をお願いします」と述べた。育ドル娘は2010年

農林水産省の消費・安全局長賞

生は120人を超え、卒業生でつくる「育ドルDream」を17年に結成。保育現場などでの経験を生かしながら食育普及活動に取り組んでいる。育ドル娘8代目リーダーの岡部留美さん(19)2年IIは「先輩方の積み重ねがあつて受賞できた。さらに活動を発展させていきたい」と話した。表彰式は大分市で6月に開催された「第13回食育推進全国大会inおおいた」であった。

(佐藤弘子)

活動さらに発展を

食育活動表彰で消費・安全局長賞を受賞した「育ドル娘」別府市役所



大分合同新聞 平成30年7月27日

県産食材で親子クッキング 郷土の味 おいしくできたよ

大分市

「夏休み親子オーガニック食育クッキング」が26日、大分市のJCOMホルトホール大分であった。市内外の児童と保護者計12組が県産有機食材を使い、郷土料理作りを体験した。

メニューはだんご汁、やせうま、きらすまめしの3品。農業や化学肥料を使わず栽培した野菜やみそ、小麦粉など使用食材の産地について学んだ後、児童は慣れない手つきでだんごを延ばし、包丁で恐る恐る具材を切った。全員で出来たてを味わった。

松岡小3年の三宅菜由さん(9)は「だんごを延ばす

だんごの生地を延ばす児童と講師の岩田史絵さん(26日、大分市のJCOMホルトホール大分



のは難しかったけどおいしくできた。お母さんと家で作ります」と話していた。

県の食育動画「郷土料理ラッ婆」に出演した祖母役の高橋鶴子さん(83)、孫役の安野心粹さん(10)も調理に参加し、動画をPRした。

読売新聞 平成30年8月20日

郷土料理 ラップでPR



心もほかほか

ラップのリズムで郷土料理のレシピを紹介する動画の1シーン(県提供)

県HPで公開 食育動画 レシピ紹介

の男女5人(10〜83歳)。「ラッ婆」はケーブルテレビのパーソナリティも務める別府市の高橋鶴子さん(83)が演じる。「難しかったけど、料理を作りたいと感じてもらえる動画に仕上がった」と喜んでいる。

県はこれまで、温泉ミュージカルを披露する「プレミアムフロイデー」(2017年10月公開)などユニークなPR動画を作り、注目を集めている。県食品・生活衛生課の担当者は「きつと、家庭でも話題になるはず。食事について話し合っきっかけになれば」と話している。

おばあさんが軽快な「ラップ」のリズムで歌い、地元で伝わる料理のレシピを紹介する食育PR動画「郷土料理ラッ婆」を県が製作し、ホームページで公開している。

動画は約5分半で、「ラッ婆」の一家が登場。「ババから伝承 郷土料理 過去からいま 伝わるレシピ」という出だしで、方言を交えながら「だんご汁」とおやつ「やせうま」の作り方を歌い上げる。作詞は大分市の映像製作会社社員岡野悟士さん、作曲は同市のレコーディングエンジニア土屋武士さんが担当した。

出演者は公募で歌唱力などを基準に選んだ県内在住